

1 学長インタビュー

FD活動に取り組むにあたって、念頭に置くべき教育像は？
長坂悦敬学長に「甲南の教育のこれから」についてお考えを伺いました。

Q. 現状認識と方針についてお聞かせ下さい。

A. 甲南には約1世紀の伝統があります。伝統があるということは革新を連続させてきた証であり、随所に「甲南の良さ」が醸成されているということです。この甲南の良いところを、再認識すること、活かすこと、そして、それを広く可視化すること、これが重要だと考えています。頑張っている学生、頑張っている教員に光を当てて、その努力や成果を可視化できれば、少し見せ方を変えるだけで社会に対して大きなアピールになります。スクラップ&ビルドではなく、「伝統を活かした革新」を目指しているとご理解下さい。

Q. 甲南の良さはどういった点にあるとお考えでしょうか？

A. 一つだけ挙げるとすれば「融合力」です。文学やバイオを専攻している学生が、ビジネスについて教えてほしいと私の研究室を訪ねてくることがあります。私が学生の頃は隣の研究室を訪ねていくのも躊躇したのですが(笑)、甲南生にはこういう優れた気概があります。カフェラテがその原料であるコーヒーや牛乳単体よりも高価なように、融合によって付加価値が生まれる、これは人材や教育にも当てはまるのではないのでしょうか。「ちょうど良い大きさ」の甲南大学では、学生も教職員も互いに接する機会が多く、融合が生まれやすい。「融合力」は甲南の大きな特長になりうると思います。

Q. 頑張っている学生を可視化したり、融合力を身につけることを促すには、どのような仕掛けが必要でしょうか。

A. 現在の学生評価はGPAを中心に行われていますが、これだけがKey Performance Indicator(目標達成度の指標)だと、学生がGPAを良くすることだけを考えて行動するようになるのでは、と心配です。私たちは、1)多様な価値観に対応していて、しかも、2)社会に貢献できる人材を自信を持って推薦できるような、新しい評価基準と評価システムを持つべきです。私はこれを「KONANサーティフィケート」と名付けてはどうかと考えています。例えば、社会でしっかりと通用する語学力を持っている学生には甲南語学サーティフィケート1級を、スポーツで周りの人を元気にするような優れた成果を上げている学生には甲南スポーツサーティフィケート1級を授与するというのはいかがでしょうか。甲南らしい評価基準が、甲南らしい行動基準をもたらすと期待しています。また、就職活動の際には履歴書に書いてアピールすることもできます。

「KONANサーティフィケート」が保証する「社会に役立つ力」自体がある意味「融合力」といえますが、複数のサーティフィケートを取得してさらにレベルの高い「融合力」を身につけたいと思う学生も出てくるかもしれません。



ながさか よしゆき
学長 長坂 悦敬

Q. 教員側の可視化とはどのようなものでしょうか。

A. 拡大部局長会議でご提示した「KONANプレミア・プロジェクト8」は、各部署の取り組みについてヒアリングした内容を取り纏めたものですが、既にいくつか融合が期待できる取り組みがあります。また、このように取り組みを可視化することによって、新たなアイデアや融合が生まれるはずですが、さらには、教育活動が、学生が、キャンパスが元気になるという波及効果も期待しています。

Q. そのためには個々の教員が元気よく教育活動に取り組める環境が重要ですね。

A. 甲南大学では現在、教育について優れた取り組みを行っても業績として目に見えるかたちになりにくいと思います。そこで「教育に関する学会」をつくってはどうかと考えています。紀要を発行して、先生方の取り組みがきちんと業績化されるようにする。さらに、アワードや教育助成金を整備することによって、教育意欲のエンカレッジとサポートを行っていきたくと考えています。

2

FDワークショップ開催決定!

2014年度のワークショップを以下のとおり開催いたします。

日時: 2014年12月13日(土) 14:00~17:00

場所: ラーニングcommons

(岡本キャンパス5号館3階サイバーライブラリ内)

講師: マネジメント創造学部 ジョーンズ・ブレント教授

パーマー・ロジャー准教授

Google Apps等のウェブツールを活用した授業方法を紹介するワークショップを開催予定です。

詳細が決まりましたらお知らせいたしますので、みなさまぜひご参加ください!

3

FD 講演会開催報告

2014年7月29日(火) 18:30～

テーマ：「Active Learning ～実践編～」

50名の教職員が参加!!

■講演：「初年次教育におけるラーニングアシスタントの活用」

講師：岩崎千晶 先生（関西大学教育推進部）

■事例報告：フロンティアサイエンス学部 松井淳 教授

経済学部 寺尾建 教授



岩崎千晶先生（関西大学教育推進部）

関西大学における、LA を活用したアクティブな授業

近年、大学教育の場において、学部学生をラーニングアシスタント (LA) やスチューデントアシスタント (SA) として採用する取り組みが注目されています。このたび、LA を先進的に活用している関西大学の岩崎千晶先生をお招きし、ご講演いただきました。

『現代の学生は、問題解決能力や社会人基礎力といった柔軟な対応力が社会から求められるようになってきました。関西大学では、このような社会の変容を受け、初年次教育において「教員が一方的に教える」から「学生が能動的に学ぶ」教育にシフトし、その中で、積極的に LA を活用しています。LA は基本的には当該科目を履修済みの学部学生が担当し、ファシリテーターやラーニングモデルの役割を果たすなど、その活動内容は多岐にわたります。例えば、学生間で議論をさせる授業では、同じ議論を繰り返しているグループがあれば、LA がグループ内で書記を割り当てたり、ボードを渡して議論の整理を促したりします。また、意見が対立して合意形成ができないような場合には、付箋を渡すなどして、LA が一緒に議論を整理することもあります。一方、授業外では、教員と意見交換をしたり、リフレクションシートを用いた振り返り会を行ったりします。LA を積極的に活用してもらうために、教員対象のワークショップやセミナーも開催しています。日常的に FD の懇話会やランチョンセミナーを開催し、LA の具体的な活用事例や効果的な活用方法を紹介し、共有するようにしています。』

甲南大学での今後の LA 活用について

岩崎先生の講演で紹介された学修支援が必要となった背景（学生の能力の低下、学生に求められる力の変容、学生が能動的に学ぶ場の必要性等）は、これまでも指摘されてきた内容であり、大学を問わず共通の問題であると改めて認識されました。しかし、それに対する対応策については、関西大学では個々の実践が大きな視野の下でオーガナイズされている印象を受けると同時に、一方、本学では、アクティブラーニングの推進、LA の育成、ライティング支援、教育環境のデザインを担当する部局がないことに強い危機感を抱かれた方も少なくないと思います。LA の導入に限らず、他大学の多くがアクティブラーニングを導入した学習スタイルに大きく舵を切っている現状を鑑み

ると、本学においてもセンター等を設置し、共通教育や専門教育の授業スタイルに関する議論を進めていく必要があるでしょう。

甲南大学におけるアクティブラーニング

本学 FD 委員会では、アクティブラーニングについて事例集をまとめました。今回、その中からお二人に、学生の「気づき」を促す具体的取り組みについて報告していただきました。

松井教授から紹介された「ENVELOPE」は、学生自身によるレポートの相互評価を円滑に行う方法で、その効果や実施上の留意点について報告していただきました。紹介された方法はとても簡単（個々の教員が独自の判断で導入可能であり、そのうえ、導入後の教育が楽）ですが、科目や専門領域を問わずアクティブラーニングを可能とし、また、高い効果が期待できるものでした。

寺尾教授は、リアクションペーパーに記載されたコメントを「前回の講義のポイント」としてプリントにまとめて記載して受講生にフィードバックすることで、教員と受講生、受講生同士が知識・理解を共有する授業について報告してくださいました。講義形式の授業科目において取り入れやすいアクティブラーニングの方法で、「大変参考になった」、「コメントの入力・プリントの配布までは行っていなかった。やってみよう」といった意見が多数ありました。また、授業方法の工夫によって授業外の学習時間を増やすことができるという報告も興味深いものでした。



フロンティアサイエンス学部：松井教授



経済学部：寺尾教授

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD — 甲南大学の FD への取り組み —

問い合わせ先

FD 委員会では FD 活動や FD ニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
大学企画室 TEL078-435-2592(内線 2812) FAX078-435-2306 MAIL kikaku@adm.konan-u.ac.jp